

1. 略歴

東京大学大学院人文科学研究科博士課程中途退学。

1979年10月～1982年2月 インド・マドゥライ大学へ留学、

1985年4月～1988年9月 オランダ・ユトレヒト大学東洋言語文化研究所へ留学。

1989年6月 ユトレヒト大学より博士（文学）取得。

1991年4月 四天王寺国際仏教大学（現、四天王寺大学）文学部助教授

1996年4月 東京大学大学院人文社会系研究科助教授

1999年4月 同 教授

2. 主な研究活動

a 専門分野

タミル語学文学

b 研究課題

- 1) タミル古代文学・詞華集『十の長詩』の研究および訳注。
- 2) タミル古代の文法書『トルハーッピヤム』の年代論。
- 3) タミル古代の文学・詩論の総合研究、ことに全作品の比較年代論。

c 主要業績

(1) 論文（2012, 2013年度のみ）

“Is Clearing or Plowing Equal to Killing?: Tamil culture and the spread of Jainism in Tamilnadu”, *Bilingual Discourse and Cross-Cultural Fertilisation: Sanskrit and Tamil in Mediaeval India*, ed. by Whitney Cox and Vincenzo Verigiani, Institut Francais de Pondichery/Ecole Francaise d'Extreme-Orient, Pondichery, 2013, pp. 53-67

「象の滝—直訳と翻訳の間で—」, 『奥田聖應先生頌寿記念 インド学仏教学論集』, 佼成出版社, 東京, 2014.3.30, 205-213頁

「詩作の場、発表の場—「声の文化」と「文字の文化」との関係で—」, 『万葉古代学研究所年報』第12号, 万葉古代学研究所, 橿原, 2014.3, 105-110頁

(2) 学会発表など

「象か子牛か—異読に関する一考察—」, 日本印度学仏教学会第64回学術大会, 島根県立会館, 松江市, 2013.9.1

「詩作の場、発表の場—「声の文化」と「文字の文化」との関係で—」, 第10回万葉古代学研究所共同研究公開シンポジウム「万葉古代学の飛鳥」, 万葉古代学研究所, 橿原市, 2013.10.6

3. 主な社会活動

(1) 他機関での講義等

東洋大学文学部（2006～）、東洋大学大学院文学研究科（2013～）

(2) 学会・研究会

日本印度学仏教学会（常務委員、評議員）、東方学会（学術委員）、

日本南アジア学会、比較思想学会、日本仏教学会、

ジャイナ教研究会、インド考古研究会、西南アジア研究会

(3) 学外組織（学協会、省庁を除く）委員・役員

(財)東京大学仏教青年会・理事長（2008～）、奈良県立万葉古代学研究所・共同研究員